

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技
【結果速報】

試合 M03 1回戦

【2025/8/17】

山形工業 5 [1 1 2 1] 21 西京

PSO

審判1 新井睦士
審判2 蛸名広貴

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	大泉 蒼生	42	21	30%
GK13	海谷 星汰	0	0	

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	清角 圭介	8	2	60%
GK13	堤 珀來	7	3	40%

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	大泉 蒼生			
2	工藤 琥太郎	1		1
3	渡辺 昊希			
4	五十嵐 悠真	2	1	
5	森 碧	11	4	
6	工藤 悠太郎			1
7	庄司 裕飛	1		1
8	堤 響			
9	工藤 聡介			1
10	福田 大滋			
11	鈴木 慶信			
12	吉田 朝澄眞			
GK13	海谷 星汰			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	清角 圭介			
2	荒川 蒼空	7	2	1
3	井上 大誠	7	3	1
4	長野 留巳	3	2	
5	濱川 愛斗	6	5	
6	坂東 汰一	2	1	
7	長尾 大樹	3	2	
8	堀 海童	5	2	
9	毛利山 幹太	2	1	1
10	三宅 天太郎	3	1	1
11	大槻 瑛	3	1	
12	高氏 悠吾	1	1	
GK13	堤 珀來			

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>



水泳・水球

No.5

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月17日（日）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo. 3

帽子の色 白

山形工業

5

1 - 6

1 - 6

2 - 5

1 - 4

PSO

帽子の色 青

西京

21

審判1：新井 睦士

審判2：蛭名 広貴

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）、ゲーム番号3は山形工業高等学校と西京高等学校の対戦となった。山形工業は創部40年を迎える節目の年であり、長年指導に尽力した齋藤秀樹先生勇退後初めてのインターハイ出場。東北ブロック2位での出場ながら、堅守速攻を武器に全員で戦う姿勢で挑んだ。一方、西京高校は地元山口開催の追い風を受け、19年の歴史の中で最も大きな声援を背に優勝を狙う。特に2023年度全日本ジュニアを制した世代の3年生が中心となり、全員水球を掲げて興奮と感動を届けることを目標とした。

試合は開始直後から西京高校がリズムを掴む。第1ピリオドは⑤瀧川がポストプレーやカウンターから立て続けに得点を挙げ、④長野もリバウンドから追加点を決めた。山形工業も⑤森が6m付近から力強いミドルシュートを沈め、応援席を沸かせるが、その後も西京は⑦長尾、③井上らが好機を逃さず加点し、スコアは8-1と大きくリードして終了。地元の大声援に後押しされた西京が圧倒する形となった。

第2ピリオドに入ると、山形工業は⑤森がポストプレーからペナルティを誘発し、自ら決めて反撃の糸口をつかむ。しかし西京高校はすぐに⑦長尾、⑩三宅の連続得点で突き放すと、③井上や④長野、⑥坂東が持ち味を発揮し、さらに点差を広げる。山形工業はGK①大泉の好セーブが光る場面もあったが、攻撃では相手のプレスに苦しみ追加点を奪えず、このピリオドも1-6。前半を終えてスコアは12-2と、西京が主導権を完全に握った。

第3ピリオド、山形工業は粘りを見せる。5:49に④五十嵐が右サイドから得点、さらに⑤森が退水を誘発し果敢に攻め込み、終盤には再び自らシュートを決めた。チームの中心として攻守に存在感を示す一方で、西京は②荒川、⑧堀、⑨毛利山らがカウンターやセットプレーから次々に得点を重ねた。特に会場を盛り上げたのは⑨毛利山のゴールで、地元応援団の声援がさらに大きく響き渡った。このピリオドは西京が5得点、山形工業が2得点と健闘を見せたものの、依然点差は大きく広がっていた。

最終第4ピリオド、山形工業は再び⑤森がミドルシュートで1点を返すが、相手GK①清角や途中出場の⑩堀に阻まれる場面も多く、得点は伸びなかった。西京は⑩高氏が力強いミドルシュートを決め、さらに③井上が立て続けに得点、終了直前には①大槻が居残りカウンターからゴールを奪い、試合を締めくくった。会場は大歓声に包まれ、西京が地元開催にふさわしい圧巻の勝利を収めた。最終スコアは21-5で西京高校が快勝。西京は試合開始から終了まで自分たちのリズムを崩さず、⑤瀧川を軸に、②荒川、③井上、⑧堀らが持ち味を発揮。GK①清角の好守もあり、攻守両面で完成度の高さを見せた。一方、山形工業も⑤森が果敢に攻め込み、④五十嵐や⑩堀田らが好機を演出。最後まで諦めずに戦う姿勢は観客を魅了し、節目の年にふさわしい全カプレーを披露した。

試合を通して印象的だったのは、両校応援団の熱い声援である。地元西京の大応援団はもちろん、山形工業の応援も力強く、プールサイドには一体感が漂った。西京は地元開催に相応しい堂々たる勝利を飾り、優勝候補としての存在感を示した。一方で山形工業も伝統校らしくチーム一丸で戦い抜き、齋藤前監督の築いた歴史を受け継ぐ姿を見せた。両校の今後の健闘に大いに期待したい。

記録者

伊藤・加藤・菅原